

都留市史

資料編 近現代

三六〇 大月谷村間の電車敷設計画報道

大正九年（一九二〇）四月

大月谷村間電車敷設

今夏登山期迄に完成

現在の鉄道馬車を変更して、大月駅より谷村町を経吉田に致る迄の交通機関を電車となさんとの計画は、予て記する所なるが、その機愈々熟したるも、今夏登山期迄に全部の工事を竣成せんとは到底不可能なるが故に、第一期工事として大月谷村間に起工すべくその筋に認可を申請せるに依り、警察部長保安課の横山警部は去る十二日来同地に出張し、吉田の終点に至るまで軌道調査を仔細に遂げ、十八日帰庁したる由、愈々その認可に依り電化の実現をみれば、富士登山者の為に一大利便を与ふることとなり、御殿場口の登山者を此方面に吸収するを得べきかといふ

（大正九年四月二日「山梨日日新聞」）

【解説】 大月と谷村間の鉄道敷設についての調査の進行を報道している。電車の開通によって利益を受けるのは、富士登山者というのも面白い。

四三 富士山麓電鉄停車場設置についての意見書

大正一五年（一九二六）一二月

意見書

国家産業ノ發展、文化ノ促進ハ一ニ交通機関ニ依ラサルヘカラサルハ言フ俟タサル所ナリ、然ルニ当地方ハ從來完全ナル交通機関ナク、一般ノ不便尠ナカラサル所、幸ヒ這般岳麓電氣鉄道会社ノ設立ヲ見、遠カラス鉄道ノ敷設セラル、ハ吾人ノ意ヲ強フスル所ナリ、然リト雖鉄道タルヤ、停車場設置ノ場所如何ニヨリ、地方ノ産業文化ニ重大ナル関係ヲ生スルモノニシテ、一度停車場ノ位置ヲ誤マルカ如キ事アラハ、地方産業文化ノ消長ニ関係シ、尚折角ノ社会的交通機関モ其ノ効尠ナルヤ今更言フ俟タス、固ヨリ本村ハ山間ナリト雖、交通頗ル頻繁ニシテ郵便物等ハ谷村局管内第一位ヲ占メ、尚産物ニ富ミ郡内特産物タル甲斐絹ノ生産ノ如キ、南都留郡甲斐絹同業組合管内ノ大半ヲ占メ、村内約式千五百町歩ノ恩賜林及民有林ヨリ産出スル林産物ハ莫大ナルモ、從來谷村町ヨリ大月駅ニ通スル交通機関ノ不完全ナル為、大部分ハ初狩駅ニ搬出シ、尚村内宝鉾山ヨリ産出スル鉾石ハ從來「ケーブルカー」ニヨリ笹子駅ニ搬出シツ、アルモ、「ケーブルカー」ハ時々破損シ事業上ニ支障ヲ来シ著シキ不便アリ、此ノ時ニ於テ谷村町下谷地内適當ノ場所ニ停車場設置ノ眺ハ将来軌道敷設其ノ他經濟關係如何ニ依リ、該貨物ノ谷村駅ニ送致

セラル、コト無キヲ保シ難シト信ス、万一富士山麓電鉄ガ谷村上谷ニ停車場ヲ設置スル場合ニハ、本村重要物産ナル一切ノ貨物ハ之カ利用ハ全然不可能ニ終リ、不便ナカラモ初狩駅ニ搬出シ、日要品ノ供給モ同駅ヨリ仰キ、尚宝鉾山ノ軌道敷設モ該駅カ谷村町上谷地内ニ決定セラル、場合ハ絶望ニ帰シ、本村産業文化ノ發達ニ重大ナル関係ヲ生スルニ付、該駅停車場ハ谷村町下谷地内ニ設置セラレム事ヲ村民一般ヲ代表シ、本会ノ議決ヲ以テ意見書及提出候也

大正十五年十二月二十四日

南都留郡

宝村長 高部昌道殿

（大正一五年）昭和六年「村会決議録」

（都留市蔵 旧宝村役場文書七三〇）

【解説】 都留・富士馬車鉄道会社が、大正一〇年に合併して富士軌道会社になった。当時は、機関車と車両二輛が普通で、大月から上吉田までを二時間かけて運行した。この史料は、下谷地区の停車場設置についての意見書である。

宝村会議長 高部昌道